

【野菜】の【積雪】対策について

<1～3月>

宮崎県総合農業試験場専門技術センター

(1) 予想される被害状況

積雪による施設等の破損、これに伴う施設内作物の茎葉損傷などの物理的被害、低温障害。

停電による暖房機の停止に伴う低温障害等、2次的な災害についても注意が必要。

【施設野菜】

(2) 事前対策

暖房施設がある場合は、暖房機の温度設定を高め設定し、施設内温度が維持できようであれば、内張りビニルは解放して融雪することで積雪による破損や倒壊を防ぐ。

積雪の程度を確認しながら、暖房機の温度設定や内張りビニルの解放度を調整する。

暖房設備の無い雨よけハウスは積雪によりパイプの破損などの被害が予想されるので、積雪前に被覆資材を除去する。

(3) 事後対策

低温や日照不足で草勢が低下した場合は、葉面散布を行う。

【露地トンネル栽培】

(2) 事前対策

支柱が湾曲するなどの被害が想定されるので、積雪前に被覆資材を除去するなどの事前対策を実施する。一方で被覆を除去すると作物に被害が出る可能性がある場合は被覆の除去などの事前対策は行わない。

(3) 事後対策

支柱が湾曲した場合は雪を除去し、新しい支柱がある場合は交換する。

茎葉の損傷がある場合は薬剤散布を行う。

※ 県内では積雪の事例が少ないため、対策の詳細はJA全農ホームページ「アピネス／アグリインフォ」内 (<http://www.agri.zennoh.or.jp/>) の【自然災害対策】「第4章.園芸施設における降雪・積雪対策について」を参照してください。